

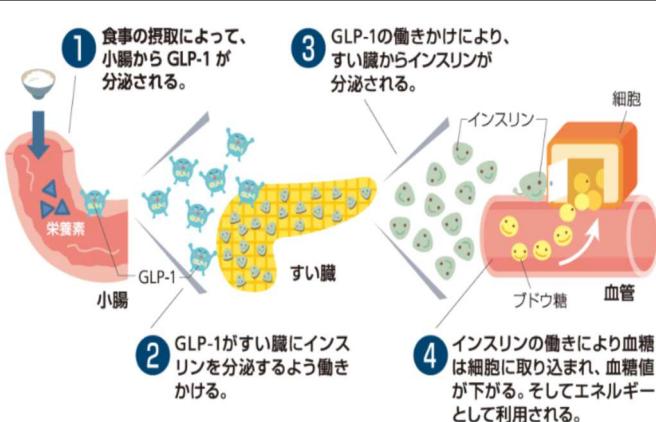
糖尿病の方、糖尿病が気になる方に、糖尿病に関する情報を紙面でお伝えしていきます。

GLP-1受容体作動薬について

糖尿病の治療に使用される「GLP-1受容体作動薬」は今、世間で「やせ薬」として噂になっていますが、「やせる」ための薬ではありません。

1. どんなお薬？

適切に糖尿病患者さんに使用すれば、様々な効果が期待できます。内服薬は1日1回、また注射製剤については、ほとんどが週1回の注射で、低血糖を起こしにくいため管理も難しくありません。



GLP-1はインクレチニンというホルモンの1つで、食事をとると小腸から分泌され、すい臓のβ細胞表面にあるGLP-1の鍵穴（受容体）にくつついで、β細胞内からインスリンを分泌させます。GLP-1は、血糖値が高い場合にのみインスリンを分泌させる特徴があります。GLP-1受容体作動薬は、GLP-1と同じように働いて、GLP-1受容体を活性化させ、血糖に応じてすい臓からインスリン分泌を促します。

2. どんな特徴が？

- 血糖値に応じてインスリンの分泌を促すため、低血糖を起こしにくい。
- 食欲を抑え、胃から腸への流れを遅らせるため、体重減少が期待できる。
- 2型糖尿病の治療に用いられ、インスリン分泌能が残っている患者さんに適している。
- 血糖値を上げるホルモンであるグルカゴン分泌を血糖値が高いときのみ抑制する。
- 腎機能保護効果も期待できる。

3. 注意点などは？

使いはじめは吐き気、便秘、下痢などの消化器症状が起こることがありますが、多くの場合、数日から数週間で自然となくなります。

併用している糖尿病治療薬によっては、低血糖となることもあります。

注射製剤は、週1回であれば時間帯の制限はありませんが、内服薬は毎日、空腹時に内服しその後30分は飲食（他の薬も）を避ける必要があります。

GLP-1受容体作動薬は、糖尿病の早期から使うとより効果が期待できます。腎臓が疲れてしまう前に、あなたの腎臓からインスリンが出るように助けていきましょう。詳しくは、医師や看護師、薬剤師にご相談ください。